

充実する清田区の郷土史資料「了寛紀明文庫」をご存じですか

あしりべつ郷土館は、郷土史家の了寛紀明氏(里塚在住、あしりべつ郷土館運営企画委員)が長年の調査研究により執筆した80冊を超す郷土史レポートを「了寛紀明文庫」というコーナーを設けて公開しています。了寛氏は今も郷土史研究と執筆活動を精力的に続けており、「了寛紀明文庫」は毎月1冊ペースで増えています。

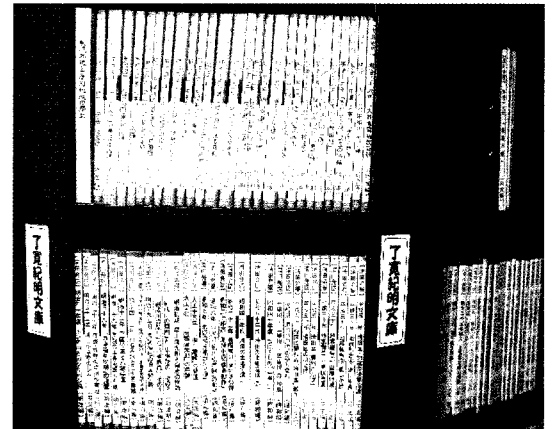
了寛紀明文庫の創設は4年ほど前。ここには、清田区の昔の地名である「あしりべつ」の語源をはじめ、北野に残る明治時代造成の農業用水路「吉田用水」跡、明治時代に平岡や真栄・有明に広大な面積の屯田兵の土地があったこと、厚別(あしりべつ)神社・三里塚神社・有明神社の歴史、大正から昭和30年代まで農村地域の発展に尽くした厚別青年会の活躍など清田区の昔の時代が鮮やかによみがえるレポートが並んでいます。

また、暴れ川だった厚別川(あしりべつ川)の昔の曲がりくねった流れ、御料線・北野通・清田通の歴史、札幌南高校の白旗山学校林および清田中央地区にある広大な北海学園グラウンドの歴史的経緯、昭和40年代以降に清田区が住宅地に大きく変貌を遂げていく過程、宅地造成で埋め立てられて消えた平岡の二里川など昭和の出来事も丹念に発掘し、紹介しています。清田区の発祥の地であり、長年、地域の中心核だった清田小学校付近のまちの変遷を詳しく記述したレポートもあり、興味がそそられます。

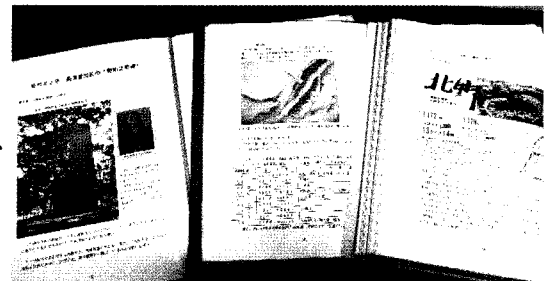
了寛氏のレポートの特徴は、昔の絵図や写真、役所の公的文書、新聞記事など多くの資料とともに紹介していることで、学術的な価値も高いのが特徴です。



児童たちに郷土館の展示を説明する了寛氏



了寛紀明文庫



了寛紀明氏の「清田発掘」レポート

了寛氏が郷土史研究を始めたのは、小学校教員だった30年ほど前から。教員退職後も研究を続けてきました。札幌中央図書館、札幌市公文書館、道立図書館、道立文書館、北大図書館などに通い、昔の資料や新聞から根気よく清田関係の史実を集め、清田区の古老からの聞き取りも行ってきました。

清田小学校校長を務めたときには、学校前に建つ「開拓功労碑」の文字が読めなかったため、これを3週間かけて判読、内容を明らかにしました。「開拓功労碑」は、清田区地域に最初に入植した長岡重治とその子孫の功績を讃えた碑です。

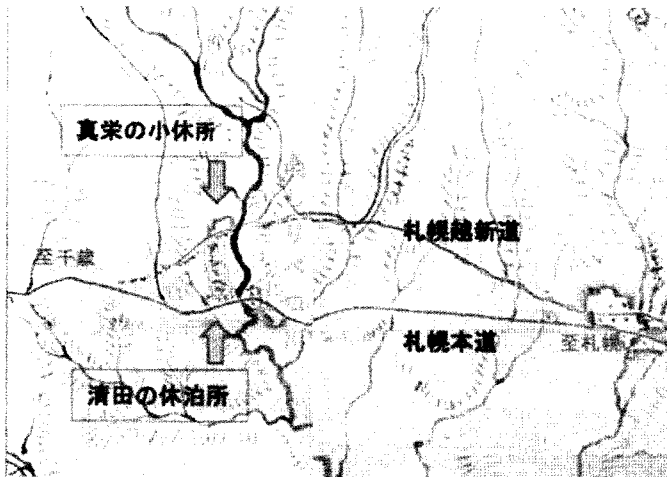
一方、郷土館の了寛紀明文庫の中から、そのエッセンスを集めた「きよたのあゆみ」シリーズを、あしりべつ郷土館ホームページで公開しています。ぜひ郷土館ホームページをご覧ください。

清田区は昔、月寒村のはずれであり豊平町の外れの農村であったため、歴史的建造物や歴史資料等があまり残ってなく、「清田区には歴史がない」などと言われたりしました。しかし、清田区にも明治の開拓以来150年に及ぶ先人達の豊かな歴史や奮闘、営みがあることを了寛氏は明らかにしました。

了寛氏は、郷土館に集団見学に来た児童や大人たちに館内を案内し、清田区の歴史を解説するボランティア活動も続けています。そして「郷土史の研究は、自分の楽しみでやってきましたが、多くの方が地域の歴史に関心を持ってくれたら幸いです」と話しています。

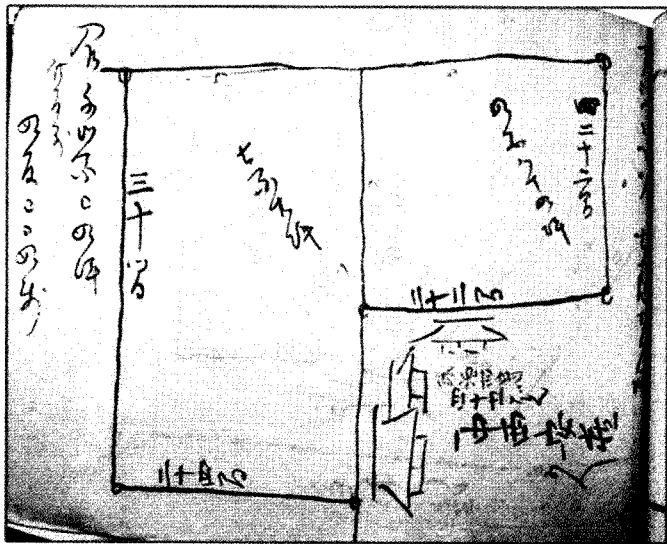
清田区の歴史あれこれ(6)

明治初期 真栄の「小休所」と清田の「休泊所」



清田地域には、江戸末期・明治初期に北海道の通行にとって重要な道路(朱線)が造られました。

左の図(上が南)で上方の朱線の道は、安政4年(1859年)に開かれた「札幌越新道」(千歳～銭函まで)です。下方の朱線の道は、明治6年(1873年)に開かれた馬車道の「札幌本道」(函館～札幌まで)です。現在の清田区の旧国道36号線となります。縦に流れている川が、厚別川(あしりべつ川)で、中央にアシヘツ(あしりべつ)と、清田の地域名が記されています。



そして、明治3年(1870年)12月、あしりべつの真栄地域に、仮「小休所」(15坪・約50㎡)が設置されました。

明治4年(1871年)12月に完成して、広さ29坪7合5勺(約96㎡)の旅人が休息や宿泊する場となりました。

小休所は、現在の真栄小、中学校の辺りと思われます。左の図は、その真栄の「小休所」(アシヘツ・明治6年7月7日検地)の図で、中西安蔵さんという人が休泊所守(管理人)と記しています。「小休所」は、母屋と納屋2棟と耕地が約40畝(1,200坪・約4960㎡)ありました。

ところが、明治6年(1873年)に「札幌本道」が開削され、札幌本道沿いに「小休所」が移築する事になりました。

下の図は、明治6年11月に移設して設置された「札幌(ママ)郡 アシヘツ」の「休泊所」です。



場所は、現在の清田小学校の旧門の近くです。絵図には、あしりべつ川・あしりべつ橋・「休泊所」が描かれています。

建物の大きさは、真栄の小休所を建て増して、31坪2合5勺(約102㎡)でした。

明治11年(1877年)に、あしりべつ最初の入植者である長岡重治さんが中西安蔵さんから引き継ぎ、休泊所守となっています。

その後、「休泊所」は明治32年(1899年)に改修されて、「月寒尋常小学校厚別分校」(現在の清田小学校)として開校しました。

このように清田地域には、江戸末頃から明治初期に、人々が行き来したり物を運ぶ道が開かれ、休んだり泊まったりする施設が出来て、とても大事な役割を果たしていました。(了寛紀明)

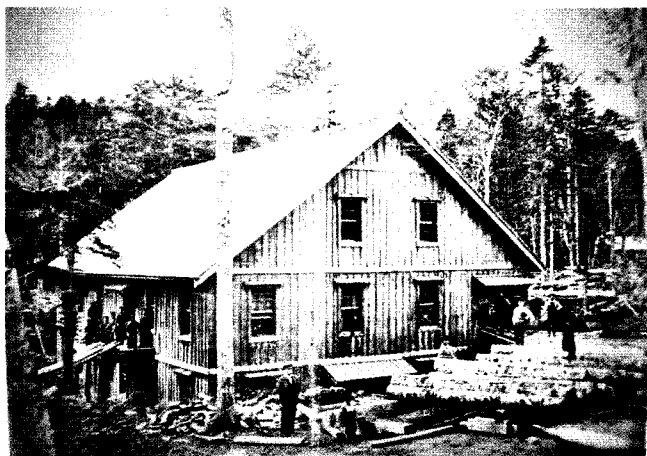
注:絵図の資料は、<上>「明治七年 札幌郡各村地図」(北海道大学所蔵)・<中>「明治六年 検地野帳」(道立文書館所蔵)・<下>「明治七年頃 札幌近郊の墨絵」(北大植物園所蔵)より

厚別水車器械所 今も用水路跡などの遺構が人知れず残る

～明治初期、アシリベツの滝近くにあった札幌建設のための木材工場

明治の初め頃、札幌の建設に使う木材を生産した「厚別（あしりべつ）水車器械所」という北海道開拓使の木材工場が、アシリベツの滝の近く、今の滝野すずらん丘陵公園（札幌市南区滝野）の敷地内にありました。その用水路跡などの産業遺構が今も人知れず残っています。

アシリベツの滝付近にあった厚別水車器械所

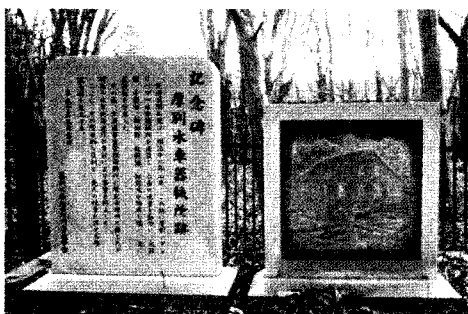


厚別水車器械所は明治13年（1880年）から明治19年（1886年）までの6年間、稼働しました。お雇い外国人ケプロンの進言で開拓使が造った製材工場でした。周囲の森を伐採して、札幌のまちを建設するために大量の木材を生産、供給しました。

厚別川（あしりべつ川）の水を使った米国製の水車2基（82馬力）が動力で、アシリベツの滝の上から手掘りの用水路で水を導いて水車を回しました。主な生産品は屋根葺き材（屋根柱）でした。

滝野すずらん丘陵公園の溪流口から1kmほど道道真駒内御料札幌線を真駒内方向に行くと、道路左側に白御影石の記念碑「厚別水車器械所跡」が建っています。1998年、芸術の森地区町内会連合会が建てたものです。

厚別水車器械所はこの記念碑のすぐ裏にありま



道路脇に建つ厚別水車器械所の記念碑

すずらん丘陵公園の敷地内にあり、立ち入り禁止になっていますが、2023年11月15日、滝野管理センターの主催により水車器械所の遺構を見学する会が行われ、特別に柵内に入ることができました。

市民13人が参加し、あしりべつ郷土館からも郷土史家の了寛紀明先生と私川島の2人が参加しました。柵内に入ると、素掘りの用水路跡と大きなくぼ地が目の前に現れました。くぼ地は深さ8mあり、タービン（水車）が収まっていた場所です。器械所は3階構造で、地下にタービン室、1階と2階に製材の各種機械があったそうです。明治の初め、厚別川の上流のこの山深い地で、札幌の建設



大きなくぼ地。ここにタービンがあった

のために男たちが木を伐り大型機械を動かして木材生産に励んだ壮大なドラマがあったと思うと感動的です。



くつきりと残る器械所の用水路跡

器械所の設置によって拓けた滝野は昔、「器械場」という地名でした。器械場小学校（滝野小学校になり、のち廃校）、器械場神社（現滝野神社）が建てられました。今でも近くには「器械場入口」というバス停があります。滝野すずらん丘陵公園のカントリーハウス（レストラン）の建物は、厚別水車器械所の外観をモチーフにしたものです。水車器械所の名残が今もあるのは興味深いです。

（川島 亨）



器械所の外観をモチーフにしたカントリーハウス

郷土館を解説付きで団体見学してみませんか

あしりべつ郷土館では、今年に入ってから清田区内の小学生の団体見学が相次いでいます。2月9日と13日には、平岡中央小学校3年生110人が来館、郷土史に詳しい郷土館スタッフ(元小学校長)の説明を聞きながら館内の昔の道具類を見学しました。また、清田の歴史を紹介したビデオも視聴しました。2月28日には清田小学校3年生60人が来館、3月4日には北野小学校3年生65人が来館し、同様に清田の歴史や昔の人の暮らしに触れました。



団体見学する平岡中央小の児童たち

郷土館では、子どもから大人まで随時、団体見学を受け付けています。見学日は水曜と土曜の開館日以外でもOKです。費用は無料です。申込・問合せはあしりべつ郷土館ホームページからできます。

清田中央地区町連 防災研修会 「昔の地形と地震被害」について講演

清田中央地区町内会連合会は2月18日、清田中央総合会館(清田5条3丁目)で「清田区の地形と2018年地震被害について」というテーマで防災研修会を開催しました。

講師は、あしりべつ郷土館運営企画委員の了寛紀明さん(郷土史家)と川島亨さん(地域メディア「ひろまある清田」代表)の2人。2018年の北海道胆振東部地震で、清田区は里塚はじめ美しが丘、清田中央地区などで液状化による宅地崩壊や家屋の損壊が多数発生しました。講演では、被害がいずれも宅地開発前の川や谷を埋めたところに沿って発生していたことを数多くの資料や写真を使って説明しました。

寄贈資料 以下の資料を寄贈していただきました。ありがとうございます。

- 布絵本の会「北野ゆめの会」20周年記念誌
- 了寛紀明氏 2眼レフカメラなど
- 厚別神社 御朱印帳
- 国立アイヌ民族博物館 2021(令和3)年度年報

シルバー人材センターに登録している清田地域班第1班(北野)の区民12人が3月6日、あしりべつ郷土館で交流会を開催しました。

交流会は10年ぶりということで、初めに自己紹介しました。そして館内の昔の道具類を懐かしそうに見学。清田区の歴史をまとめた動画も視聴し、郷土館のホームページについての説明も受けました。



開館日 水曜日・土曜日(10時~16時)
入館料 無料
場所 札幌市清田区清田1条2丁目 5-35
清田区民センター2階
運営主体 清田区内の町内会連合会で作る運営委員会(区民による自主運営)

■ 郷土館ホームページ ■

郷土館の動きや清田区の歴史に関する新しい情報を発信しています。
<https://ashiribetsu-museum.com/>
郷土館のホームページ QRコード →



ひな人形を寄贈した鈴木さんが来館

あしりべつ郷土館は2月上旬~3月上旬、7段飾りのひな人形を館内に展示しました。これは昨年、北野にお住いの鈴木俊子さんから寄贈していただいたものです。

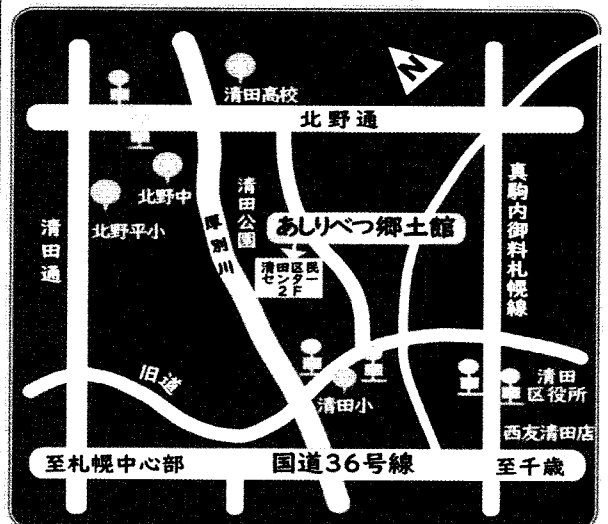
その鈴木さんが3月2日(土)、子や孫、ひ孫を伴ってひょっこりと郷土館を訪れました。ご自身が寄贈したひな人形をご覧になり、とても喜んでいただきました。



ひな人形と寄贈者の鈴木さん

このひな人形は55年くらい前に娘さんが生まれた際に購入したものだそうで、20年ほど前まで毎年、桃の節句(ひな祭り)が近づくと自宅に大切に飾っていたそうです。

アクセス・マップ



中央バス「清田小学校」から約520m